

## 1 今年度の取組目標と方策について(成果と課題)

### (1) 教育活動の目標と方策

#### ア、学習指導

- ① 教科会等を充実させ、授業改善を図り、組織的で計画的な学習指導体制を構築する。
- ② 「都立高校学力スタンダード」事業を通して教科マネジメントを定着させ、主体的学習へ向けた指導を充実し、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。
- ③ ルーブリック評価等を取り入れた評価の工夫を行い、生徒の意欲を高める。
- ④ 読書(新聞等も含む)活動を充実し、生徒の言語能力の向上を図る。

**【成果】**①授業指導方法の情報共有を行い、授業改善を積極的に行う体制ができてきた。時間講師との連携も図り、授業内容の標準化を図っている。②寺子屋事業や小テスト、振り返りシート等を活用した授業を展開し、基礎基本の定着を図れた。③実技系授業を中心に評価方法の改善を図っている。④国語や理科において図書館との連携を図った授業を行っている。また、発表やディベート等を取り入れ、言語活動の充実を図っている。生徒の授業評価満足度は約83.8%であり、実技系の満足度が高い。

**【課題】**学習に対する意欲を高めるための、多様な学力層に対応する評価方法や個別学習指導方法の開発が必要である。授業に対する満足度は高いが、学力の定着という観点では更なる改善が必要である。

#### イ、生活指導

- ① 安心・安全で落ち着いた学校生活を推進し、生徒一人一人の社会的・職業的自立につながる、地域からも信頼される身だしなみ等の基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成を行う。
- ② 生徒の個別状況を早期に把握し、きめ細かく組織的な指導を行なう。
- ③ 校内美化、省エネ、節電について考え、実践する力を培う。

**【成果】**①生徒は落ち着いた学校生活を送れている。学校評価アンケート(地域)で「応援したい」は約88%となった。②教育支援委員会を週1回開催し、特別な支援を必要とする生徒の情報共有・指導方法策定を行っている。YSWの活用は昨年比1.6倍以上であり、多様な生徒事情に組織的な対応ができた。③校内美化はゴミの分別等概ねできている。

**【課題】**学校生活における大きな課題はないが、社会生活を送る上での貴重品管理や人間関係の構築については、個別に指導支援を行ってきたい。

#### ウ、進路指導

- ① キャリア教育全体計画を組織的に実行し、1年次から計画的・段階的に、コミュニケーション能力、社会性の育成を含めたキャリア教育を充実させる。
- ② 三修制、四修制に配慮した進路指導体制を確立し、ガイダンス機能を充実させ、希望進路を実現する指導を行う。
- ③ 特別な支援を必要とする生徒に対しては、組織的な就労支援体制等を構築し、卒業後の移行支援を見据えて指導する。
- ④ 卒業生に対して、定着指導・支援を行う。

**【成果】**①様々な体験活動や発表活動、グループエンカウンター等を通じてコミュニケーション能力は徐々に確実に伸びている。②ガイダンスは3部制の実態に即して丁寧に繰り返し行い、進路実現につなげている。③④は継続して行う。

**【課題】**進路意識を高める手立ては1年次から行っているが、なかなか自身の将来像が見えない生徒もいるのが実情である。特に3年次は3修制予定の生徒と4修制予定の生徒が混在し、4年次生は多様な事情を抱えているため、一律の指導は難しい。集団ガイダンスに個別対応を充実させて、粘り強く指導・支援を行う。また、大学一般受験生徒への対策の充実を図る。

#### エ、特別活動・部活動・その他

- ① 学校行事については内容の精選と充実を図り、生徒会や部活動において生徒がより一層主体的に関われるように活性化させ、生徒の学校への帰属意識や社会性を高める。
- ② 地域と連携した避難訓練等の実施により、社会連帯の精神と責任を重んずる態度を育成する。
- ③ 体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動、教育活動を展開する。
- ④ オリンピック・パラリンピック開催に向け、ボランティアマインドや国際感覚を醸成する。

【成果】①生徒の学校行事満足度は74.4%(学校評価アンケート)である。部活動参加率は50%を切ってしまうが、参加できている生徒の活動状況はよい。②年4回の避難訓練を計画的に行い、消防署の協力を得ている。③問題なく行えている。一層教員の意識を高めていく。④生徒会やボランティア部、有志によるボランティア活動は地域と連携して行えている。図書委員会による地域図書館との連携も新たにできた。

【課題】学校行事に関しては3年次までは参加率もよいが、個別事情がより一層多岐にわたる4年次(5年次生6年次生を含む)は参加率が急降下する。しかし、参加できている生徒の満足度は高いので、不参加生徒の意欲を高めて進路実現にもつなげたい。

#### オ、健康づくり

- ① 「アクティブプランto 2020総合的な子供の基礎体力向上方策(第3次推進計画)」に基づき、体力向上を目指す。
- ② 多様な生徒に対応した教育相談体制の確立を図り、心と体の健康づくりへの組織的な取組を行なう。また、自殺の未然防止を図る。
- ③ 学校保健計画に基づき、生徒・保護者が主体的に健康に関する意識を高めるよう、組織的指導の充実を図る。
- ④ 学校給食を活用した食育を一層推進する。

【成果】①体育の授業を中心に長距離走や球技など体を動かす量を増やしている。苦手な生徒も最大限の努力をしている姿が見られる。②教育相談体制は教育支援委員会を中心に自立支援チームや外部機関と密な連携を図って事案解決を図っている。③④計画的に行っている。学校給食の喫食は年度当初よりも下がる傾向はあるが、2学期以降は定着している。その日の食のコメントを配布することで、食の意識を高めている。

【課題】3部生や3部の授業を受ける生徒でも全員が給食を活用しているわけではない。施設上の制限もあるが、喫食率を上げてよりよい食環境を提供したい。

#### カ、募集・広報活動(地域交流等)

- ① 総務部が中心となり、学校情報を更に積極的に発信し、募集・広報活動の活性化を図る。
- ② 地域の関連諸機関との連携を強化し、地域の教育力の活用を促進を図る。

【成果】①募集広報活動はホームページの充実や見学会・説明会の拡大などの手立てを講じたが、入試倍率は約1.3倍となった。②チャレンジ指定科目や系列科目、美術、地歴、家庭科等の授業で地域の教育力(市民講師、地域企業、地域小中幼保、地域児童館、図書館、障害者高齢者施設、和船等)を活用できた。

【課題】様々な事情から生徒募集には苦戦している。教育力を高めるとともに効果的な広報活動を工夫する必要がある。

#### キ、学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とし、主幹教諭や分掌等主任、経営企画室が一体となった学校運営体制を構築する。
- ② 校内研修の充実、目指す学校像の共通理解を図り、一貫した協働的指導体制を確立する。
- ③ 学校経営計画の実現を目指す経営参画型経営企画室としての機能強化を図る。
- ④ 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。

【成果】①企画調整会議を効果的効率的に機能させることができ、職員会議の回数減につながった。②新学習指導要領に向けたグランドデザイン策定を通して、今必要

とされる教育課題の共有を図った。③④引き続き実施していく。

【課題】主幹教諭層を中心とした組織体制は出来ているので職層に応じたOJTを充実させたい。特に授業力の向上と進路指導力の向上体制を、本校の特別支援体制にまで伸ばしたい。

## (2) 重点目標と方策

### ア、学習指導

- ① 学力向上研究校(校内寺子屋)、土曜講習(かもめ塾)、授業TT、授業日や長期休業を利用した補講・補習など、進学対策委員会や学力向上委員会等を中心とした組織的・計画的な指導体制を確立し、習熟度に応じた学力向上を図る。
- ② 教科の特性に応じた「主体的・対話的で深い学び」を研究・実践する。またそのために、授業力向上のための校内研修の実施や校外研修(指導教諭授業参観、研修センター研修、民間研修等)への参加を行う。
- ③ ルーブリックやポートフォリオやパフォーマンス評価など多面的な評価方法を研究・研修・実践することで、学習到達度や学習経過の評価を生徒に還元し、生徒の学習意欲の向上につなげる。
- ④ 平成30年度から実施する改定した教育課程表を検証し、次期学習指導要領に発展させる。
- ⑤ 授業等で図書館利用を充実させ、読書月間・週間の設定を通して、読書活動を推進し、校内で「高校生書評合戦」を開催する。
- ⑥ JETプログラムやALTを積極的に活用し、語学力向上だけでなく、広く異文化理解に繋げる。

【成果】①少人数ではあるが、寺子屋事業やかもめ塾を活用する生徒が定着している。長期休業日中の補習・講習の講座数は30講座と増加した。また、長期休業日の後半に講座を設けることで、2学期の登校につなげる工夫をした。②校内での授業改善グループが立ち上がった。指導教諭の授業公開等の外部機会を活用して授業改善に資する例が出て来た。③一部の教科で工夫が見られている。④順調な進捗が見られる。⑤国語、美術、家庭、理科、地歴等での図書館活用時間が昨年度29時間に対して145時間と大幅に増加した。⑥英語によるコミュニケーションを継続的に実施できている。

【課題】①対象生徒の増加と実施方法の検討。②相互授業参観の「見える化」等を通じたOJTの充実。③観点別評価を意識した評価の工夫とそのための作問能力の研鑽。④育てたい生徒像実現のための教科連携。⑤⑥一層の推進。

### イ、生活指導

- ① 「授業を大切に」週間を設定し、常に全教員が授業規律の確保・維持に努め、授業開始時刻と同時に授業を始め、1単位時間を大切にすることで、生徒に「時間を守る」意識を育成する。更に授業の開始時・終了時の挨拶を敢行させる。
- ② 全教職員が本校の指導基準を共通理解し、遅刻防止・頭髪・服装等の生活指導を行う。公共の場や交通機関、学校生活を送る上でのルールやマナーを厳守させ、規範意識を高める。特に、情報機器の適切な利用(SNSルール)を徹底する。
- ③ 特別な支援が必要な生徒への生活指導について、教育支援委員会を中心に都教委の自立支援チームやその他の外部支援と連携を活用して、中途退学や不登校を未然に防止し、生徒の自立につなげる。
- ④ 清掃指導の充実を図り、校内の清潔感を保つ。

【成果】①概ね良好である。②大きな課題は出てきていない。③特別な支援の必要な生徒に対する体制は出来ている。④概ね良好

【課題】①集団的視野でみた場合は良好であるが、個々で見た場合、時間を守ることに對する基本的な考え方を支援する例がある。②個々の生徒事情を大切に扱う本校において、集団に属する場合の指導支援方法は難題である。情報機器の利用方法については常に注意が必要である。③高等学校としては先進的な取り組みをできているが、その範囲を越えているケースにどこまで対応するかは大きな課題である。④ごみの分別に少し課題がある。

## ウ、進路指導

- ① キャリア教育推進委員会の活性化を図り、「チャレンジ指定科目」の指導内容・指導方法を検討・改善し、自己理解と将来設計の活動を重視し、計画的・系統的なキャリア教育を実施するとともに、保護者等への情報提供も適切に行い理解、協力を求める。
- ② ハローワーク、サポートステーション等の地域機関と連携を深め、進路指導を充実させる。進学者については学力の推移、就職者については資格取得の状況を分析し、組織的に進路指導を行う。その上で1・2・3年次全員に統一した学力テストを実施し、その活用を図るとともに、資格取得を奨励する。
- ③ 特別支援教育コーディネーターが中心となり、特別支援学校と連携した進路指導の充実を図り、特別な支援を必要とする生徒に対しても「進路指導カード」を活用し、進路実現を図る。
- ④ 卒業生全員への「卒業生進路アンケート」や就職先、進学先訪問など卒業生への支援を行う。

【成果】①概ねできている。②外部テストの分析利用について緒に就いた。③特別支援学校のセンター機能を活用し、進路指導を行っている。④9割程度の返信があり、状況を把握して在校生指導に活用している。

【課題】①指導のプロセスは改善をしつつ行っているが、職業理解・意識啓発の点では深まり切れていない。②職業開発能力センター等も視野に入れ、生徒の個に応じた指導を行う。進学指導についても高大接続改革を意識した指導方法を研修する。③④個々の対応となるケースがあるが、計測していく。

## エ、特別活動・部活動・その他

- ① I部、II部、III部の生徒が一堂に会する学校行事、生徒会活動をより充実させ、学校行事への参加率を向上させる。
- ② 全校集会や部集会を活用し、校歌指導や講話等の指導を充実させ、大江戸高校生としての自覚と連帯意識を育成する。
- ③ 部活動加入を促進し、生徒の体力や気力の向上を図るとともに、達成感や満足感を体験させることで、主体的に活動することの意義を感じさせ、リーダー育成を図る。
- ④ 教員を対象に体罰防止、いじめ防止の校内研修を行う。また、部活動の顧問教諭は、部活動の「指導方針等」を作成し、生徒・保護者に対して説明を行い、さらに保護者に対して指導状況の参観の機会を設ける等体罰防止に向けた取組を行う。外部指導員については、経営企画室を含めて委嘱・承諾を適切に行う。

【成果】①合同の行事は堅調である。部間を越えた交流が4年次を中心に見られた。②卒業証書授与式において、立派に歌唱できた。1年は合唱祭で意識を高められた。③各種大会での好成績や他校との合同練習、特別支援学校との合同練習などを通じて学校への帰属意識や達成感を養えた。④適切に行い、体罰はなかった。

【課題】①行事による参加率の違いがある。②③なかなか登校で来ていない生徒の支援が課題である。④引き続き適切に実施する。

## オ、健康づくり

- ① 「精神科医の校医事業」、「都立高等学校等への特別支援教育心理士巡回相談事業」及び「高等学校における発達障害教育支援員等活用の研究事業」の実施校として、専門家のコンサルテーションを生かすとともに関係機関との連携を図る。
- ② 新たな感染症、心の健康づくり、食物アレルギー等の健康課題を理解するための校内研修を開催し、組織的で具体的な取組への実践力を高める。生徒対象には、薬物乱用防止教室、情報モラル・リテラシーに関する教室、交通安全教室、喫煙防止教室等を開催する。保護者にも保健便り、カウンセラーだより、講習会参加など子ども理解のための支援を行う。
- ③ 栄養職員、学級担任等が中心となり、学校給食等を活用した食育の一層の推進やテーブルマナー講習会の実施を通して、正しい食生活、食に関する知識・理解を深めさせる。

【成果】①体制は整っている。②適切に実施できている。③給食において、毎回、その日の食をテーマにしたプリントを配布して意識を高めている。

【課題】①諸事業の活用に対する精神的な壁を作っている生徒に対する支援方法が課題である。②すべて継続的に実施していく。③1部生・2部生の食については把握しきれ

ていない。生活アンケート等で把握・指導をすることが課題である。

#### カ、募集・広報活動（地域交流等）

- ① 校内において学校説明会や適応指導教室、教育相談室及び1年次生出身中学校等を訪問し、学校情報を提供する。また、退職教職員等ボランティアも活用し、個別学校見学への対応を行う。
- ② 増学級に伴い、募集広報活動を練り直し、本校で自己実現できる受検生の応募数増加を図る。
- ③ ホームページの充実を図り、適宜で内容を更新する。

【成果】①②③すべて順調に実施した。特にHPでは保護者の要望を受け、生徒へ配布した資料の提示を始めた。

【課題】様々な募集・広報活動は行い、改善・拡大をしているが、応募倍率は年々低下している。どのように広報活動が効果的かを検証するとともに教育内容の充実を図る。

#### キ、学校経営・組織体制

- ① 「OJT診断基準」、「執務ガイドライン」を活用し、教員が一体となって学校運営に当たっていく体制を構築する。
- ② 「経営参画ガイド」や事例集を活用し、経営企画室の経営参画を推進し、教育職員と行政職員が密接な連携の下、学校運営を進める。
- ③ 施設・設備の安全確認・効率的利用の視点から校内外を巡視し、より安全・安心な学校環境を整備し、不備による事故をゼロとする。町内会の一員として、地域ぐるみで地域を含めた防災教育の推進を図る。
- ④ R-PDCAを定着や企画調整会議録の電子回覧等で、引継ぎ業務の効率化や会議時間の短縮を図り、ライフ・ワークバランスを推進する。また、長期休業日中における休暇取得の促進と定時退校を推進する。

【成果】①②体制は徐々にではあるが整いつつある。③校内点検は巡視指導とともに毎日数回行っている。④職員会議の回数減や打合せの簡略化、閉庁日の設定などを行った。

【課題】①②は異動が伴うことから、毎年意識を高めることが必要である。③巡視等で安全確保を行っているが、予算の壁がある。④R-PDCAを定着や企画調整会議録の電子回覧等は引き続き推進する。

#### ク、数値目標

- ① 生徒による授業評価において、満足度、理解度を85%以上。【満足度83.8%、理解度80.7%】
- ② 教員によるお互いの授業参観を学期1回以上、授業に関する校内研修を年間1回以上。  
【若手研修を活用した校内研修を3回実施。有志による授業改善研修を2回実施】
- ③ 1・2・3年次の基礎学力テストで、英語、数学の学力段階D3を30%以下、C以上を25%以上。  
【D3 1年数学39.2% 2年数学32.4% 1年英語23.4% 2年英語27.9%】  
【C以上 1年数学18.8% 2年数学22.6% 1年英語30% 2年英語38.7%】
- ④ 資格取得を奨励し、資格取得者140名。【125名】（知識及び技能審査申請者延べ数）
- ⑤ 生徒の進路決定率80%以上。【81.4%】
- ⑥ 文化祭、体育祭への生徒参加率85%以上に。【文化祭79% 体育祭84%】
- ⑦ 5月の部活動加入率70%以上、全国大会出場4部以上、さらに、12月末の部活動加入率60%。  
【12月48%、全国大会出場2部】
- ⑧ 生徒のBMI標準範囲（18.5~25）の割合を65%以上。
- ⑨ 学校説明会の参加者2000人以上、退職ボランティア等を活用した個別訪問対応600人以上。  
【学校説明会1309名、個別訪問321名】
- ⑩ 入選倍率1.8倍以上。【1.31倍】
- ⑪ 給食喫食の生徒率（3部生の）50%以上、実際の食数率50%以上。【生徒率67%、食数率60.1%】
- ⑫ HPの更新を年間80回、アクセス数を月6000回以上。【更新94回】
- ⑬ 自律経営推進予算のセンター執行割合60%。【57%】

